

令和5年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>社会科研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>「主体的に問題・課題を解決し、社会に関わろうとする態度の育成 ～子どもたち一人一人が単元の学習を見通し、振り返る学習過程・活動を通して～」</p>
<p>資質・能力 目指す 育成を</p>	<p>社会的事象から問題・課題を見だし、主体的に調べ考え、社会に関わろうとする態度を育成する</p>
<p>研究内容</p>	<p>本研究会議は、小中学校4名の研究員と指導主事により、小中学校社会科学習において、子どもたちが社会的事象から問題・課題を見だし、主体的に事象を調べ考え、社会に関わろうとする態度を育成することを目指して研究を行う。</p> <p>小学校学習指導要領解説社会編では、小学校社会科における「学びに向かう力、人間性等」について、「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」を、中学校でも同様に「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」を養うことが求められている。これらは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けることに向けた態度であるとともに、社会生活に生かそうとする態度を含むものである。また、川崎市学習状況調査（令和5年度）では、「社会で問題になっていることについて、どうすればよいか、考えたことがある」に肯定的な回答は、小4から中3の6学年の平均で64.6%、「授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えている」は62.0%と3割以上の子どもたちが、社会の問題を考えたり学習を生活と結びつけて考えたりできていない状況であることがわかる。そこで、社会科学習においては、より一層子どもたちが社会的事象から問題・課題を見だし、主体的にその問題・課題をについて調べたり考えたりしながら、社会に関わろうとする態度を育成することが必要であると考えた。</p> <p>本研究会議では、主体的に問題・課題を解決し、社会に関わろうとする態度を育成することを目指し、「問い」「見通し」「振り返り」の3つを研究の視点として取り上げる。単元の学習に子どもたちが問いをもつ活動、問いの解決に向けて予想し学習計画を立てる活動、追究の過程や内容、方法を振り返る活動を組み込むことで、単元の学習を通して、次の学習へのつながりを見いだしたり、社会生活につなげて考えたりすることができたかを検証する。</p>